

# 強者の戦略

## 第8回 南

### ～3年生(2)～

こんにちは！地理の南です。今回は第7回で語りつくせなかった3年生時代の話をしていきましょう。2年生時代の暗黒の時代を振り払うべく前向きに学生生活を送ることを決めた3年生の4月、私は全学共通科目と文学部の専門科目に加え、教職免許取得のために法学部・経済学部・教育学部などの授業も受講することになりました。

まず、教職免許の話から始めますね。私は、入学当初から周りの友人が「教職、教職…」と何かにつけて気にする発言をしていることを知っていましたが、当時の私は何も感じるものがなかったのです。そして3年生ぐらいになると人生に不安を感じ始め、とりあえず資格を取っておくのも悪くないと思い、周りの「教職、教職…」と口にしてた友人の気持ちを少し理解できるようになりました。で、教職の免許はどうすれば取れるかという、私の場合は社会科系を取ろうと思っていたので、全学共通科目の歴史や地理系の授業、教育学部で開講されている教育系の授業、法学部や経済学部で開講されている法経的な授業の単位を取り、4年生時に教育実習に行く単位が認定される仕組みになっていました。昔は2週間で済んだ教育実習も、今は4週間になっているらしいですよ。理科の教職免許を取ろうとすると理学部の授業の単位も必要なんだと思います。適当ですいません。

ここで一つアドバイスです。教職免許を取ろうと思っている文学部志望の人は、入学後に文学部のシラバスをよく読んでください。全学共通科目のどの単位が教職免許に必要かしっかり掲載されています。私の周りの友人はあらかじめこの内容を知っていたので、教職免許用の授業の単位を取ろうとしていたのです。私は、3年生になってこの事実気づき、愕然とします。正直、1年生の真面目なときに卒業に必要な全学共通科目の単位は揃っていたのに、わざわざ教職のために多くの授業を受講しないといけない羽目になりました。

では時間割を少し整理しましょう。京大の総合人

間学部で開講される全学共通科目で、英語と中国語で4つコマが埋まりますよね。そして、日本古代中世政治文化論や都市空間論などの教職用の授業でも2～3コマ埋まります。なので総合人間学部棟での授業で週7コマです。次に、教育言論などの教育学部の授業で3～4コマ、憲法・民法・刑法・経済原論などの法経学部系の授業で4コマ、文学部の語学2コマ(英書講読・中書講読)、基礎ゼミⅡ(倉富雄三郎日記輪読)などに代表される文学部開講のさまざまな授業という殺人的時間割が出来上がっていたのでした。[朝2コマ昼3コマ×5日=最大25コマ/週]のうち、20コマぐらいは最初出席していたと思います。何より悲しかったのは、1限文学部→2限総合人間学部→3限文学部→4限総合人間学部みたいな移動をしないとイケないことでした。結構この2つの学部は距離が離れているんです。自転車もなかった私には体力的にも精神的にもしんどい移動でした。見事に単位をそろえていて、私に「おちこぼれ」発言をしたO・R君は、正門あたりで私とすれちがうと「浪人生みたいな雰囲気になったな」と、また私を攻撃してきます。確かに2年生で単位をほとんど取っていないので、他大学では留年、気持ち的には浪人生になっていてもおかしくないかと妙に納得してしまいました…。

この殺人的時間割は、当初こなせるかどうか不安はありましたが、続けていくうちに、“やっぱりこれが大学生の本道やな。新しいことを知ることは人間に与えられた最大の幸福ではないだろうか”と思うようになりました。K村教授の英書講読の受講態度も2年目になると真面目になりました。最初のガイダンスの授業で「去年は出席点が足りなくて、レポートを提出しても落第になった人がいるので、みなさんはそんなことにならないようにね」と私を牽制してくるK村教授にもめげず、毎回予習をしっかりとって発表もしていく精神を見せつけていきます。法経学部で学ぶ内容は、憲法にしる刑法にしる、文学部にはないシステムティックな感じにぞくぞくしま

# 強者の戦略

した。刑法は何と言っても殺人事件とかが出てきますしね。教育学部の授業ではディベートを経験しました。「大学での単位二重登録は是か非か」というテーマです。“二重登録”って意味分からないですよ。ちょっと説明しておきましょう。常識的に考えたら、月曜日1限に登録できる授業は1つであるべきですよ。2つ登録しても、2つとも参加することなんてできないのですから。でも、当時の文学部はかなりゆるゆるでした。文学部の開講されている授業の名前が列記されている紙を渡され、その横に○を付けると受講登録ができました。時間割でかぶっているとか関係なしに全部登録できたのです。私は能天気にも全部○して3年生は提出しました。そして、全学共通科目は、全学共通科目同士重ならないければ、総合人間学部に申請して登録を行うことができました。つまり、文学部と総合人間学部は、お互いの生徒がどの授業を取ろうかどうしようが気にしないようでした。そのおかげで、総合人間学部・文学部・教育学部・法学部・経済学部などの単位はすべて登録することができていたのです。今はきっと部署を超えて電子化されていると思うので、こんなアクロバティックな単位取得は無理だと思います。だから、普通に教職の単位を取ろうとすると、ある程度大学生活の楽しさを削らなければならないと思います。このような受講登録を二重登録や多重登録と言います。この登録の仕方を、認めるべきなのか認めないべきかのディベートが教育学部の授業で行われて、私も参加しました。私は、当然ながら認める派ですよ(笑)。だってそうじゃないと私は絶対教職を取れていなかった。結局、「授業も聞かないのに登録して単位を認定されるなんて、どう考えてもおかしい」という超真面目な意見に押されて、南チームは負けてしまいました。でも、いろんな学部でいろんな授業を受けることができ、とても幸せな時間を過ごせたと思います。一つ残念だったのは、文学部の授業が一番興味を持てなかったことですね。美学美術史の授業を受けて、有名な作品の見方や評

価を知ったり、社会学の授業を受けて統計の大事さを知ったりしたことは、何か将来に生かせない感じがしてつらかったですね。歴史学の授業は好きだったのですが、それ以外の文学部開講科目は専門的すぎます。教職のために憲法や経済学の基本を学んだことの方が私的には大きかったです。結果的に、全学共通科目、法経学部、教育学部の授業は真面目に受け続け、文学部開講科目への参加率は下がってしまいました。文学部を目指している人には申し訳ないですが、私の実感はそういうところです。

あと、3年生時代に初めて訪中いたしました。4月ごろにNHKスペシャルで中国の特集を見たときに、農村から都市へ人々が移動し始め、沿岸都市が活気づいていることに感動し、“この夏は激動の中国を見てみよう!”と決めました。夏に中国に行くこと決めたので、大学の中国語の授業の予習・復習もさることながら、自分で購入したテキストでも勉強し、ガンガン中国語能力を上げて、8月に北京大学で行われた語学研修に参加しました。思ったより自分の中国語能力が低いことにショックは受けましたが、1か月の研修中も必死に勉強し、いろんな場所も観光し、有意義な1か月になりました。帰ってきてからも秋は中国語の勉強にいそしみ、HSKという語学試験も受けました。

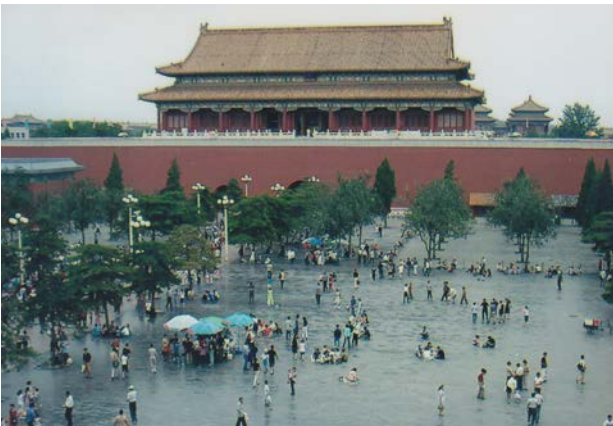


天安門

# 強者の戦略



天安門広場



故宮博物院



北海公園からの眺め



北海公園の中(一般市民の音楽風景)

こうして真面目な大学生活に戻った3年生でしたが、秋を超えて冬がやってくると、そろそろ就職活動の季節がやってきます。人生の岐路です。また、4年生は卒業研究に入る時期になります。今回は、このへんの話をしていきましょう。